

【刊夕日一月八】

常磐新報

定価 一月一元二角五分 半年七元 一年十三元
 電話 三三六〇番 印刷部 電話 三三六〇番
 編集者 川崎 印刷者 川崎 発行所 川崎
 社址 平野町 電話 三三六〇番

平文壇一巡り

◇歌壇の人々……上
 炭鏝いちめんのまつくろ
 な斜面が回轉しつゝ霧に
 沈む

これは昨年十月頃「東京朝日」の土岐善麿が社用を果して仙臺からの歸途飛行機上の即景で、小名濱附近を詠んだうちの一首である。四句が如何にも機上から見下してゐるやうな氣持なので未だに思ひ出せる歌だ、その前々月號の「詩歌」をみると白日社の美木行雄が片倉製糸平工場に突發した某事件で盛んに口を尖んがらしてゐたが肝腎のその歌は無産黨のスローガンによくある種類のものだつた、それから中央新聞の吉田孤羊著「啄木を繞る人々」に誰であつたか一寸記憶にないが何でも啄木の一友人が自分の父の戦死を葬ふため福島縣中町へ向つたといふ記事があつたやうだが、今の忠魂碑建立の頃かと思ふ、こんな風で磐城平と中央歌

壇とは何となく曰くがありさうだがそれでは平地方から何といふ歌人が輩出してゐるかとさういふさか興がさめる、詩壇の暮鳥、心平等に對比する人は記者の知る限りに於いて遺憾ながら見當らないのである、

平歌壇の中心は言ふまでもなく詩南社である、詩南社には詩人もあるが歌人も多い、然し未だに口語歌又はプロ短歌の人は全く居ない——尤も前者は時に見受けるがそれはほんの試みに過ぎないやうだ、詩南社の選者は高久晩霞であるがこの人の歌は古調を重んじる點から考へて心の花派に屬するものと思ふが「詩南社」歌壇にも幾分佐々木信綱強り所が隠見するやうだ果して然らば同誌廿三輯の陸にまさる野山牛き物こゝだ秘めて只渺々と海こそ奇しけれ
 にこの人の全面目が躍如としてゐる同じページで風さむき夜のちまたをとほり來つる吾にうれしえ室ぬくもれる
 とひどく老人じみた歌を島

田忠夫が作つてゐるが「柴木集」の童謡詩人として聞えてゐるだけ情熱の間口が手八丁だ、詩の片奇歌二が短歌會詠草に
 雨はれて厨の裏の葱畑がぬれたまんまで月夜となつた
 と口語歌を詠んでゐたがこの三句と結句の交錯した歌境に感覺のニューアンスがあつていゝ歌だと思つたが只初句から受ける感じがあながち口語歌のみに限らない九及の一筆を感む

常磐文藝
 萍生山房雜詠
 渡邊何鳴
 △萍に風見えて蜘蛛の走り出し
 △夕月や蜘蛛まるくと楓より
 △鮮を腰す厨に匂ふ夕沙かな
 眼鏡 トキハヤ
 著音器 平野一丁目

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽 清
 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
 内科 小兒科 外科 花柳病科
 耳鼻咽喉科 レントゲン科
 平野町 電話 五二二三番

久能木式石油コンロ

燃料經濟日本一 ▲今が需要最好期
 部分品附屬品修理修繕 平野町 吉田藥舖
 御一報次第實物持參 城山

暑中御伺 守田屋酒店

相馬中村町南町(電一八番)

愛馬散

内羅專門妙藥 小野屋藥店

看護婦急派

の求めに應じます
 平野町 看護婦會
 電話 三〇七番

金遠藤の茶

喫茶部新設

原町齊藤病院

入院隨時 電話 一二九番
 内科 醫學博士 木村小太郎
 小兒科 院長 齋藤 齊
 婦人科 齋藤 齊
 ×光線科

原齒科醫院

平野町土橋通り電話三一三番



チキンソース

一滴のチキンソースはよく消化を助け食慾を増進せしむ

チキンソースは一般向きの嗜好に適する精製完成せられたもので極めて風味よく西洋支那料理は勿論野菜天ぷら魚類總ての揚物に用ひて一層美味です
 夏のアツサリした御料理にチキンソースの一滴は忘れられないもの、一つで特にこのソースに依つて消化を助け食慾を増し
 殊に氣候の變目の不健康時に殺菌力の偉大なる此の調味料は絶対安全食に缺くべからざるものである
 ……
 食料品の店頭此の商品なきは一種のハチであり家庭では缺くことの出来ない常備品です

東京本所林町 荒井吟醸
 特約店 海老屋商店 平野町 電話 二三五番

三井炭礦の社員 昨日全部解雇さる

伊藤鑛業所長一名の 退職手当三萬餘圓

休山せる石城郡警崎村三井炭礦は社員五十七名に對しては休山を發表せるのみで未だ解雇は申渡してなかつたが昨日伊藤鑛業所長以下全員解雇の旨正式に發表された因に是れが退職手当其は伊藤所長の三萬餘圓を筆頭に夫々支給される筈である

退山相次ぐ

一部就職決定 一困るのは朝鮮人

三井炭礦解雇労働者の就職口に就いては三井本社にて種々斡旋中であるが本日迄に捌け先の決定したのは▽九州田炭礦十名▽同松島炭礦卅五名▽同山野炭礦卅名▽警城炭礦十五名の九十名にて既に退山したのは百四十名あるが其他全部の退山には相當の日子を要すべく殊に朝鮮人百六十名は全く身の振り方に窮して居ると

休山の續出で

出炭制限の 必要がない

常磐各炭礦は炭價の暴落を防ぐため豫てより出炭制限を厳守してゐたが炭價は底知らず下落するので文字通りの受難時代に陥り經

營の困難に伴つて群小炭礦の廢坑續出と相次ぎ警城炭礦は既に町田坑を廢し次で小田炭礦は新斜坑の水没で出炭不能となり今亦三井炭礦の水没廢坑した爲め

イモチ病を警戒せよ

降雨と低温續き 空を仰いで稲作を憂ふ

雨は今日になつても止まない、農家は空を仰いで稲作を憂へて居る、イモチ病の發生を 懼れて居る

の大神谷の農事試験分場にて聞けば大暑より立秋に至る間の気温は最も高くなければならぬこの間の平均温度の高低は稲作の豊凶に常に正比例して居る明治卅五年卅八年、大正二年近くは昭和二年の凶不作は明らかにこれを

立證し

て居るが今年も七月中旬以降曇天降雨連續し殊に土用に入る所謂日照一時不足して何時回復するとも見當がつかず此の分では昭和三年の如く凶作の一因たるイモチ病發生の懼れがあり一般農家では常にこれが警戒に努め若し此の症狀(稲葉に黒點を生ず)を發見した際は躊躇なく適

三井炭礦の一ヶ月一萬五千噸を筆頭に少なくとも五萬噸の出炭減となるので從來の制限は必要がなくなり且つ三井炭礦と鐵道省との納炭契約も解除される事になつた爲め常磐の大炭礦主で組織してある木曜會では近日湯本町松栢館に臨時協議會を開き之等諸問題に關して善後策を協議することに

驅除を

行ふ事が必要で若し此のイモチ病を等閑に附する時は出穂期に至り穂首イモチ病を併發し意外の災厄を蒙ることとなるから御注意を怠りなき様に

夏井川改修 川巾を擴大

夏井川の改修工事協議會は昨日一日中町役場會議室にて開催工事について種々協議を重ねたが昭和五年に於ける改修箇所は神谷村大字天神地内の百六十間に亘つて川巾を擴大する事である

麻雀クラブ

三日から開設
平驛前實川醫院の裏に平麻雀俱樂部が三日から開設さ

磐中プールに 明日から給水

河童連が大喜び

平水道部では水不足を告げて居た爲め磐中プールへ給水する事が出来ず折角の寶も物腐れ視されて居たが本月廿一日には平町民體育大會があり

續いて 廿八日には郡下青年聯合體育大會が開催されるので馬目武之助、關内正一の兩町議は本一日平町役場に伏見町長を訪ね之が給水方を懇願したところ水道部としても現在過剰な用水があるわけではない

連日の

雨天模様で一般町民の使用量が減退しどうやら間に合ふ程度になつてゐるから約三千石だけ明日から二晩が、りて供給し便宜を與へる事になつたこれで河童連も大喜びであるがこの五日には盛大にプール開きを舉行する運びに至るであらうと

ヒロイモノ

▽平町長橋町武井正夫君は四日松ヶ岡公園に三エス萬年筆▽南町宮村安吉君は七日三丁目にて五十圓錢在中の墓口▽一丁目

雀を研究して歸つたものであると

馬目邦治君は八日搔毬小路で一圓廿錢在中の墓口▽鍛冶町吉田友一郎君は十日同町にて五十圓錢在中の墓口▽新川町佐藤義清君は十二日一丁目にて十六圓銀側懐中時計▽古鍛冶町伊藤與平君は十三日銀側懐中時計▽月見町國井ミチは十三日自宅前で五圓十錢在中のシース▽立町塚塚一郎君は十六日二丁目一圓卅錢在中の墓口▽一丁目赤塚徳石衛門君は十七日二圓七十九錢在中の墓口▽舊城跡若松藤二君は十七日十圓十錢在中のシース▽内郷村大石治助君は十六日田町

廿年の永きに亘り 區長勤績の神谷氏 區民相圖つて表彰式

平町第二區(研古)前區長神谷亥三雄氏は明治四十四年十月廿四日區長に就任以來九期廿年の永きに亘つて歴任し今回其職を退いた爲め同區民は神谷氏の任中に於ける功績に酬えんが爲め明日午前七時より縣社子鐵倉神社々頭に於て表彰式を舉行し記念品として金側懐中時計を贈呈する由であるが伏見町長も臨席して左記の祝辭を朗讀すると

中村たより

感心な娘止子 中村町向町魚商佐渡屋正次(四)の娘正子(三)は長兄(三)を相馬中學を卒業せしめんが爲め十三歳の時から父の業を助け男裝し目轉車にて顧客廻りをなし非常な奮闘努力であつたが長兄が卒業上京するや弟(二)をも相馬中學を卒業せしめたので附近で讀めぬ者はない

常磐片々

三井炭礦解雇労働者への涙金平均九十三圓に過ぎないのに伊藤鑛業所長は獨りで三萬餘圓、一將功成つて萬卒枯るの類ひか
磐中プールに給水満々、河童共よ!町民の命の水だ、真に一滴千金、汚すなッ
カフエの續出に相次ぎ今度にはマージャンクラブが出来た、平町も此方面の都市計劃は着々實現
先頃は炎大續きにチフスを惶れ今度は降雨續きでイモチ病警戒、どつちを向いても好い事はない



明日の天才

報豫氣天... 今晩も明日も南東の風曇り勝ち一時晴れるも時々驟雨ある模様

△前六・二〇 夏期獨逸語講座(第十三)武内大造... △前七・〇〇 健康講座「家庭療法」第三回終醫學博士 矢野專之助

次郎伴奏矢島繁治佐藤フミヨ、伴奏佐々木秀子... △後六・三〇 水産講座「水産から見たる貝殻」妹尾秀實

放送映畫劇 作兵衛「己が罪」

原作 菊地幽芳 脚色 柳井隆雄 井上正夫

塚口度三は環とわらない仲となり一子を宿したまゝ環をすて、海外へ去つて行つた、環は死を覚悟してさ

と留守と言つて断はられた、作兵衛は意外なこと、思ひはしたが、村の子と一緒にしては悪いといふ寺田

獨唱 教師範唱

一、獨唱

菅原雄次郎 伴奏 矢島繁治 (イ)故郷 (五學年) 梧桐の梢に、蟬の聲高し、故郷に歸らん、夏休

は正弘をつれてこの濱へ来た。正弘と玉太郎は仲よしになつたが作兵衛は環の顔

ぞ見ゆる、我胸は躍りて我足は進む、門に倚り母上、歸りを待たん。(ロ)海邊の眺望(六學年)

めい、いさすゝめ 來らば敵はみなごろし 三、たがひにきほふ眞盛に

一、獨唱 佐藤フミヨ 伴奏 佐々木秀子 (イ)金魚の晝寝(二學年) 赤いべ、着た可愛い

一、かなたの山邊松林 かしこの岡邊杉木立 ちら／＼見ゆるもの影は

健胃とんこ散 小野常治謹製 胃腸を強く消化を助ける

市原醫院 平町田町(電話二一四番) 内科、小兒科 市原卯太郎 外科一般、婦人科 市原陸郎

鶴印特製最中 大鶴屋藥店 番四〇七話電 下園公町平

國產精工舎製 腕時計セイコー 提時計エンバイヤ 特約店 金光堂時計店 電話三七六番

